



明治150年 米の流通に関するアーカイブ

公益社団法人米穀安定供給確保支援機構

カテゴリ

生産

- 【資料名】 単用犁(高北光栄號)
【年代・来歴】 昭和初期
【寸法】 犁身長 133cm
【保存状態】 概ね良好

【画像】



【略説明】

大正から昭和初期にかけて、全国各地で短床犁の著しい改良が進められ、特に水田用の畦立耕に用いられた。高北犁製作所(現株式会社タカキタ)の単用犁「光栄號」もその一つであった。

特に高北光栄号では、牽引抵抗の低減や切れ味を改良した犁先、碎土効果を向上させる設計など幾つかの特許や実用新案が用いられていた。

【注記】

東京農工大学農学部は、明治期初期から昭和30年代までの間に使われたさまざまな形式の畜力農機具100点あまりを収蔵しており、その資料群は産業考古学会選定「日本の産業遺産300選」に選定されている。

なお上記の年代・来歴及び略説明については、東京農工大学名誉教授 下田博之博士の著書「図説 畜力農機具発達史(1995年6月)」を基にしている。

- 【所蔵機関】 東京農工大学農学部
【住所】 東京都府中市幸町3-5-8
【連絡先電話番号】 042-367-5654(農学部総務室)
【所蔵URL】 <http://www.tuat.ac.jp/>
【閲覧】 要相談

【このページの問い合わせ先:公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 03(4334)2161】